

○東京都教育委員会目標

・スクール・ミッション

○スクール・ポリシー

・グラデュエーション・ポリシー

・カリキュラム・ポリシー、

・アドミッション・ポリシー

○本校の教育目標と目指す学校

・基礎基本を重視した授業と授業改善を推進するとともに授業規律の徹底を図り、生徒が安心して学ぶことのできる教育環境を整備することにより、充実した学校生活をおくることができる安定した学校づくりを推進する。

・行事や部活動を含むすべての教育活動をととして、オリンピック・パラリンピック教育を通じて得た「学校2020レガシー」を推進し、その理念を深め、豊かな国際感覚と共に、日本の伝統・文化について、その良さを発信する能力・態度を養う。また、体力向上に努めると共に、アスリート等の生き方をととして何事にも忍耐強く努力し、諦めない心や国際社会にも貢献できる行動力のある人間を育成する。

・地域の教育資源の活用、地域社会行事への積極的な参加をととして交流を深め、生徒が多様な人々と協働して学ぶ機会をつくと共に、広報活動を積極的に推進し、学校組織全体で地域に開かれた学校づくりを推進する。

○本校のグランドデザイン

Anniversary 40th
since 1983

山高魅力化プロジェクト

18歳成年に相応しい立ち居振る舞いができる主権者の育成

「トライ&チャレンジ
すべての体験から進路実現へ」

・ユネスコスクール
・海外学校間交流推進校
・学力向上研究校
・エンジョイスポートプロジェクト校

○町田市・山崎町と緊密な連携

・町田市立山崎中学校及び町田市立七国山小学校と連携した教育活動

・東京都町田市への郷土愛の更なる育成・山崎高校生の町田市・山崎町への理解伸長

・地域の課題解決へ貢献（防災・防犯・地域活性化）

○高大連携

・桜美林大学、玉川大学、東京家政学院大学との連携

観点	中期的目標と方策	今年度の教育活動の目標と方策	重点目標と方策	自己評価・報告
学 習 指 導	■ ICTの活用によって、子供たち一人ひとりの力を最大限に伸ばす 【目標】一人ひとりの個性や能力に合った最適な学びの実現 【方策】 1－1 きめ細かい指導を行い、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図ります 1－2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進します 1－3 カリキュラム・ポリシーに基づき、教科会、教科主任会、職員研修連絡会を開催して、学力分析、学習指導分析等を深化させ、組織的に生徒の学力の向上を図ります。 1－4 カリキュラム・ポリシーを徹底し、すべての教育活動の質の向上を目指すために、TOKYO スマート・スクール・プロジェクトに基づき、教育のデジタル化を推進します。 1－5 ユネスコスクールに相応しいEDS教育をすべての教科・科目と、すべての学校行事等に織り交ぜて、「主体的・対話的で深い学び」の実現と探究能力の向上を図ります。	【目標】全ての生徒に確かな学力を育む教育 【方策】 2－1 きめ細かい指導を行い、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図ります 2－2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進します 2－3 教科主任会議を時間割（月曜6時間目）に組み込み、「入学選抜」「模試」「共通テスト」等の分析を行うとともに、教科書選定や教育課程、観点別評価やICT活用、施設・設備活用と充実等について共有化・共通化を深めて、きめ細かい指導の深化と、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図ります。 2－4 習熟度クラスを設けて、生徒の学習意欲を活性化させ、意欲の高い生徒の向学心を、さらに向上させます（学力向上研究校）。 2－5 全教員が、年間2回（3回）授業を動画撮影して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と授業力の向上に取り組めます。	【目標】「TOKYOスマート・スクール・プロジェクト」の推進 【方策と数値目標】授業満足度（肯定的評価）85%以上、授業動画撮影を全教員年2回以上実施 3－1 一人ひとりの個性や能力に合った最適な学びの実現を図るために、説明中心型の授業ではなく、生徒が主体的に活動することによって、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力を向上させ「学びたくなる授業」づくりの定着化を図ります。 3－2 1学年及び2学年においては、ノートアプリ（MetaMoj ClassRoom）等を活用した授業を実施するなど、デジタル化を推進します。 3－3 教科指導のなかで、興味関心や能力が高い生徒、または、将来の進路実現に向けて、プラス（入試や進路選択）になると考えられる生徒については、「ビブリオバトル」「スピーキングコンテスト」「サイエンスフェア」等の大会やコンテストへ意図的に参加を働きかけて、一人ひとりの個性や能力にあった最適な学びに取り組めます。	評価【C】 授業満足度（肯定的評価）80%、授業動画撮影の提出率88%で期日に遅れるものがいた。 4－1 「学びたくなる授業」を工夫していたが、授業満足度は80%と目標には及ばなかった。 4－2 ノートアプリ（MetaMoj ClassRoom）等を活用した授業実施率は昨年よりも上がってはいるが、今後、全科目での有効な実施を目指す。 4－3 「ビブリオバトル」「スピーキングコンテスト」「サイエンスフェア」等の大会やコンテストへの参加者を出すことができたが、今後、参加者をさらに増やしていく。
生活指導・健康づくり	■ 生徒の成長を社会全体で支え、主体的に学び続ける力を育む「学び」 【目標】生徒の健全育成と心身の健康・体力向上の推進と、きめ細かいサポートの充実 【方策】 1－1 コンプライアンスを徹底し、生命を大切にし、お互いを尊重する意識を醸成する。 1－2 ESD教育をととして、持続可能な環境づくりと美化活動に取組み、グローバル感覚を醸成する。 1－3 人権尊重の理念を定着させ、あらゆる偏見や差別をなくす教育を充実します 1－4 生命を大切にする心や他人を思いやる心、規範意識等を育む教育を充実します 1－5 いじめ防止等の対策や自殺対策に資する教育を推進します 1－6 生徒に寄り添い向き合う指導を充実させて、グラデュエーショ	【目標】生徒の健全育成と心身の健康・体力向上の推進と、きめ細かいサポートの充実 【方策】 2－1 校則について、生徒・保護者・地域・関係機関・教職員等と協議を深めて見直しを図ります。 2－2 SNSなど「SNS山高ルール」を徹底し、情報モラルやマナーを身に付けさせて、Society5.0時代を切り拓ひらくイノベーション人材を育成します。 2－3 学校行事・生徒会活動・部活動は、生徒が主体となって、準備・実施・片付け・引き継ぎができるように立案・実施・評価・見直しを実施して、18歳成年に相応しい立ち居振る舞いを身に付け、真の自立を図ります。	【目標】生徒の健全育成と心身の健康・体力向上の推進と、きめ細かいサポートの充実 【方策と数値目標】進級率100%、卒業率100% 3－1 コンプライアンスを徹底し、保護者や関係機関と連携した生活指導を徹底します。 3－2 教員同士で指導の差がでないように、校則の見直しを引き続き深化させてまいります。 校則の点検と見直しについては（教育庁指導部高等学校教育指導課3教指高第36号）のとおりすすめます 3－3 教職員等（TEAM山高）全員による統一した生活指導により、安全で安心な学習環境を整えて、健全な心身の育成を図ります。	評価【C】 進級率94.7%、卒業率97.7% 4－1 コンプライアンス徹底のため、外部機関と連携した生活指導を実践した。 4－2 教員間の指導差に関する保護者からの苦情が10件以上あった。次年度に向けて校則の見直しを図る。 4－3 安全で安心な学習環境を整えるため、校内美化を推進し、避難経路の確保の再確認を行った。 4－4 「個別支援コーディネーター連絡会」を時間割内に設置することにより、支援の必要な生徒の共有化・共通化を図ることができたケースもあったが、連絡会に情報が上がってこない生徒もあり、学年により差が生じた。

	ン・ポリシーにおける「社会性」、「主体性」、「実行力」の育成を図る。また、リーダーシップ力を向上させながら、規範意識の向上を図り、18歳成年に相応しい立ち居振る舞いを身に付けさせます。	2－4 「特別支援コーディネーター連絡会」を週1回（水曜日4時間目）開催し、特別支援教育コーディネーターがスクールカウンセラーと連携して、個別の支援や個別の教育相談活動の充実化と、ソーシャルスキルや非認知能力の向上を図るなど、生徒の自立と自律に向けた教育を推進します。	3－4 特別支援や個別支援が必要な生徒及びその必要性を検討することが必要な生徒については、「個別支援コーディネーター連絡会」を新設して、特別支援計画や個別支援計画を作成して、必要な配慮事項等の共有化と共通化を図り、家庭や関係機関と連携を深めて指導をします。	
進路指導	■ 生徒の個性と成長に合わせて意欲を引き出す「学び」 【目標】世界に羽ばたくグローバル人材の育成 【方策】 1－1 アドミッション・ポリシーを基に、人権教育、主権者教育等を実施して、18歳成人に相応しい立ち居振る舞いができる主権者を育成します。 1－2 グラデュエーション・ポリシーにおける「創造力」、「表現力」、「課題発見力」を育成し、変化する社会に柔軟に対応する力を養います。 1－3 自分の未来を切り拓ひらく力を育むキャリア教育を充実します。 1－4 地域交流等とおして、自己の役割や責任感を果たすことにより、自己肯定感の向上を図る。 1－5 国際交流を更に推進するとともに、TOKYO GLOBAL GATEWAY（TGG）等を活用してコミュニケーション能力の向上を図ります。 1－6 「海外学校間交流推進校」として、海外のユネスコスクールと交流するとともに、国内ユネスコスクールとも交流ができるように充実化します。 1－7 「面接対策」を深化・発展させて、自己理解を深めさせます。 1－8 「総合的な探究の時間」において、アウトプットすることに重点を置いた指導を計画し、「表現力」の向上を図り、生徒の卒業後の進路活動における面接・論文等に展開できるように深化させます。	【目標】夢と志をもち、可能性に挑戦しようとする力を育む教育 【方策】 ・自分の未来を切り拓ひらく力を育むキャリア教育を充実します 2－1 「面接対策」を深化・発展させて、自己理解を深めさせます。 2－2 「総合的な探究の時間」において、アウトプットすることに重点を置いた指導を計画し、「表現力」の向上を図り、生徒の卒業後の進路活動における面接・論文等に展開できるように深化させます。 2－3 「総合的な探究の時間」における体験活動等が進路実現に関係していることを生徒に指導し、入学時からのキャリア教育と重ねあわせて、「創造力」「課題発見力」を向上させ、18歳成年に相応しい立ち居振る舞いができる主権者を育成します。 2－4 学習が苦手な生徒（中位層及び下位層）の学力向上に向けた取組を、引き続き、粘り強く行うとともに、得意な生徒（上位層及び中位層）が、さらに、学力を伸ばし、進路実現を果たして行けるような、講習や補習を実施（山崎受験道場等）、検定合格等に向けた指導、模擬試験や入学選抜等の分析会や進路行事を計画・開催します。	【目標】高いレベルでの進路実現の達成率向上 【方策と数値目標】進路決定率 100% 3－1 多様な進路希望に対応するために、「面接対策（年5回以上）」を1学年から3学年まで実施するように充実化を図ります。その際に、非行防止も不登校未然防止を意図して、夏季休業期間中（7月末から8月末まで）に実施します（閉庁日を除く）。 3－2 「すべての体験から進路実現へ」を提唱し、日頃の授業等から興味関心や能力の高い生徒を把握し意図的にスカウトして「ビブリオバトル」「サイエンスフェア」「スピーキングコンテスト」等へ参加を促して、自己肯定感が高めさせます。また、委員会活動やボランティア活動等の取り組みについてもポートフォリオにまとめさせて卒業後の進路活動に生かせるように細やかに指導します。 3－3 「海外学校間交流推進校」として、海外のユネスコスクールと交流するとともに、国内ユネスコスクールとも交流ができるように充実化します。 3－4 町田市や山崎町を焦点化した探究学習に取り組み、「（仮称）山崎サミット」を開催する等、関係機関や地域住民と意見交換をしながら持続可能な開発に向けた教育（ESD）の充実化を図ります。	評価【C】 進路決定率 88.4% 4－1 全学年対象に「面接対策（年5回以上）」を夏季休業期間に実施したが、初めての実施ということもあり、十分に実施できない生徒もいた。次年度は早い時期から生徒に周知する。 4－2 日頃の授業等から興味関心や能力の高い生徒を把握し意図的にスカウトしたため「ビブリオバトル」「サイエンスフェア」「スピーキングコンテスト」等へ参加する生徒が一部ではあるが出てきた。次年度は参加者の増加とともに内容の充実も図る。 4－3 ユネスコスクールの関東ブロック大会及び全国大会に参加し、全国大会では、本校の取組みの発表を行うとともに本校の担当者がパネラーとして参加した。 4－4 第2学年の総合的な探究の時間の取組みを外部の探究支援員の力を借りながら「第1回山崎サミット」を開催することができた。
特別活動等	【目標】特別活動等の充実化 【方策】 1－1 生涯を通じて、たくましく生きるために必要な体力を育む教育を推進します 1－2 健康で充実した生活を送るための力を育む教育を推進します 1－3 危険を予測し回避する能力や、社会の安全に貢献できる資質・能力を育む教育を推進します。 1－4 生徒会が中心となって、学校行事の一層の充実を図り愛校心や帰属意識、郷土理解、リーダー性を高めます。 1－5 部活動の活性化を図り、生徒の主体的な参加を通じてスポーツや文化活動に親しみ、これまで培ってきたオリンピック・パラリンピック教育の活動を「東京2020レガシー」の構築に向けて、さらにその先に社会で活躍するために必要な力を身に付ける教育を推進します。 1－6 「エンジョイスポーツプロジェクト」校として、外部機関と連携し、運動やスポーツに親しむ機会を設定し、生徒の基礎体力や運動意欲の向上及び心身の健康づくりの取組を活性化します。 1－7 読書活動を推進し、国語力や表現力を養わせ、読書意欲の向上と未読率の解消を図るとともに、書評合戦等に積極的に参加します。 1－8 図書室の利用促進のため、図書委員会を中心とした運営や広報活動を充実化します。	【目標】学校行事や生徒会活動によるリーダー養成 【方策】 2－1 地域の社会人や、中学校と連携を図り、競技や発表の実践を通して、知識・技能の伸長を図ります。 2－2 学校行事や生徒会活動では、生徒が主役となり生徒自身が企画・運営（清掃・片付け・改善・引き継ぎを含む）して、達成感と成就感等を経験させます。 2－3 各学校行事等での生徒会役員による「講話」、「各種委員会からの連絡」、「リーダー研修」、「国内外の他校との交流」等で、生徒会役員及び各委員のリーダーシップ力の向上を図ります。 2－4 「行事の山高（体育祭、文化祭、修学旅行、マラソン大会）」として、新たな取り組みや時代にあったオリジナリティを生み出していきます。 2－5 「エンジョイスポーツプロジェクト校」として、生徒の興味・関心を高める授業を実施するとともに、放課後等においては親しむことができる機会を設定し、多様な関わり方を促進し、健康的な生活習慣の身に付けさせて「東京都統一体力テスト」結果の向上を図ります。 2－6 図書館にユネスコスクール、ESD教育やSDGSコーナーを設けるとともに、生徒一人1台タブレット端末を活用した情報発信につとめ、	【目標】リーダーの養成、部活動加入率の向上 【方策と数値目標】遅刻年間15回以上の生徒減（前年度0.02％）、部活動加入率 85％（前年度80％）、図書貸出冊数一人10冊以上（前年度4冊） 3－1 部活動、委員会活動、補習、ボランティア等に参加する生徒の数を増やし、「放課後にぎやかな山高」にしていまいます。 3－2 教職員の会議や打ち合わせは、時間割に組み込む等の工夫を凝らし、放課後は、部活動、委員会活動、補習・講習等、生徒に寄り添っていただき、安全・安心の向上を図っていただきますようお願いをいたします。 3－3 部活動等の安全・充実の向上を図るため、学校規模（人・施設・予算）に見合った規模へ「選択と集中」をして、地域や連携大学からの外部指導員等を積極的に活用することを推進し、部活動の推進を図ります。 例：実績と経験のある指導者が意欲的に取り組み、高い教育効果が期待される部活動については、「文化スポーツ推薦入学選抜」を導入します。 例：部活動顧問を兼任することを最大限に解消し、教職員も生徒も集中をさせて、安全・充実の向上を図ります。 3－4 図書室の利用を促進し、読書活動をさらに推進させ、国語力や表現力を養わせ、読書意欲の向上と未	評価【C】 遅刻年間15回以上の生徒は前年度より増、部活動加入率61％、図書貸出冊数一人2冊 4－1 クラス減に伴い生徒数が減少しているにもかかわらず部活動数が以前のままであったため、次年度は部活動数の見直しを行う。 4－2 企画調整会議、教科主任会議といった会議は時間割内に組み込み、放課後に教員が生徒に対応できる時間の確保に努めた。次年度は、さらに委員会活動、補習・講習等、面談などで生徒に寄り添う時間の確保に努める。 4－3 部活動の推進を図るための方策の一つとしてアーチェリーでの文化・スポーツ特別推薦選抜を実施し、この選抜による入学者も決定した。また、次年度に向けて部活動顧問の兼任することを解消させる体制を整えた。 4－4 ここ数年本校からの参加者がいなかった書評合戦に1名の生徒が参加することができた。

		授業、学校行事、探究活動等あらゆる場面で活用向上を図ります。	読率の解消を図るとともに、書評合戦等に積極的に参加します。	
家庭・地域との連携 協力・交流活動、学校広報活動	【目標】地域・社会の教育資源を活用し、生徒を支え伸ばす教育活動を推進します 【方策】 1－1 地域・社会の教育資源を活用し、生徒を支え伸ばす教育活動を推進します 1－2 学校と家庭、地域・社会が一体となり、生徒を見守り、育てる教育活動を推進します 1－3 家庭や地域との連携を深めて、18歳成年に相応しい立ち居振る舞いができるようにします。 1－4 学校の特色を動画等にまとめて、募集活動や学校広報に活用し、推薦に基づく選抜及び学力検査に基づく選抜（前期・後期）の応募倍率の向上を図ります。 1－5 学校 HP 等の更新回数と内容の改善を図り、保護者、地域、関係機関等から、さらに信頼が高まる、開かれた学校づくりを推進します。 1－6 地域（防災、防犯、交流イベント、環境美化）活動へ積極的に参加するとともに、「海外学校間交流推進校」としてユネスコスクール校等との交流を促進します。	【目標】・学校と家庭、地域・社会が一体となり、子供を見守り、育てる教育活動を推進します 【方策】 2－1 授業公開、学校説明会、保護者会、学校行事等、保護者及び地域住民の参加者数増をめざして、開催の周知方法や内容の改善を図り、「山高」の魅力を発信します。 2－2 山崎町や町田市と連携して安全教育、防災教育の充実化を図ります。 2－3 山崎町や町田市と緊密に連携して避難・防災・防犯体制を常に見直し、「危機管理マニュアル」等を細やかに更新するなど、学校課題を発見・改善する校内研修を意図的、計画的に実施します。 2－4 山崎町や町田市へ貢献できるような体験をとおして、生徒の自己肯定感の向上が図れるような連携を推進します。 2－6 桜美林大学、東京家政学院大学、玉川大学等と連携を深めて、大学生や大学関係者等との交流をとおして、生徒の自立・自律を深化させます。 2－7 町田市立七国山小学校及び町田市立山崎中学校と本校との連携を緊密に図ります。	【目標】町田市・山崎町との連携 【方策と数値目標】学校 HP 更新年 50 回以上授業公開、学校説明会、保護者会、学校行事等の来校者数 2100 名以上、学校説明会 300 名以上 3－1 生徒会（委員会・部活動を含む）の生徒を中心として、地域貢献活動に力を入れ、地域清掃や挨拶運動、ボランティア活動に積極的に参加させます。地域の方々にふれあい、社会の力になる体験をさせて自己肯定感を高め、非認知能力の向上を図ります。 例：山崎団地自治会との連携（地域清掃、防災訓練、イベント、環境美化活動参加等） 3－2 学校の魅力発信については、動画にまとめとともに、在学生や在校生の保護者等から直接、中学生や中学生保護者へ発信できるように、学校説明会等の運営方法と内容を改善します。 3－3 山崎町や町田市、そして、桜美林大学、東京家政学院大学、玉川大学等と連携を深めて、安全・安心で「誰一人取り残さない持続可能な」地域コミュニティーと環境づくりに取り組みます。	評価【B】 学校 H P 更新回数 99 回、授業公開、学校説明会、保護者会、学校行事等の来校者数 2900 人 学校説明会 1070 人 4－1 生徒会（委員会・部活動を含む）の生徒を中心に地域のお祭り等のボランティア活動に参加し、地域の方々から感謝の言葉をいただいた。また、2 学年の総合的な探究の時間において、山崎団地自治会と防災活動などでの連携を図ることができた。 4－2 学校の魅力発信のひとつの手段として、「山高 Instagram」を新しく立ち上げ中学生や中学生の保護者に向けて情報発信を行った。学校説明会は、動画等を利用して生徒の様子を見せるとともに毎回の振り返りを通して、各回の改善を図り、実施することができた。 4－3 1 年生の人間と社会、2 年生の総合的な探究の時間を通して、山崎町や町田市、大学との連携を深めた。
学校経営・組織体制	【目標】学校経営の適正化 【方策】 1－1 質の高い教育を支えるための環境と、質の高い学校教育を支える施設・設備等を整備します。 1－2 生徒の多様なニーズと時代の要請に応えます。 1－3 次代を担う社会的に自立した人間を育成します。 1－4 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりを推進します。 1－5 教育公務員として、高い使命感・倫理観をもって服務規律を遵守（コンプライアンス）し、生徒・保護者・地域から信頼されるように常に見直しと改善を図ります。 1－6 創立 50 周年に向けた計画を立案し、着実に発展・進化させます。 1－7 C4th や採点システム等のデジタル技術を活用して業務の効率化（時間等）を図ります。 1－8 ライフ・ワーク・バランスの推進への取組を促進します（「年休・夏休取得推進週間」「定時退庁週間」等）。	【目標】学校経営参画の推進と組織の活性化 【方策】 2－1 災害時を想定した避難体制を踏まえた学校の施設・設備等の改善を図ります。 2－2 持続可能な社会づくりについて、教職員が学校の 5 S（整理・整頓・清潔・清掃・しつけ）に取組み、生徒の模範となります。 2－3 本校組織全体の更なる活性化を図り、経営企画室の経営企画機能を高め、学校経営参画を推進し、教育系と行政系の職員が密に連携した学校運営や施設管理を行います。 2－4 教育公務員の魅力・やりがいを発信し、誰もが「山高」に勤務したくなるような学校づくりをします。 教育行政や学校教育の仕事の楽しさや魅力、そして、都立学校で勤務することの充実感や達成感等、喜びが感じられる風土づくりを意識化した OJT に取り組みます。 2－5 イクボス宣言、計画的な年休等取得、学校閉庁日の活用等、ライフ・ワーク・バランスを推進します。	【目標】ライフ・ワーク・バランス推進と組織活性化 【方策と数値目標】超勤時間月 80 時間以上ゼロ・45 時間以上減少、いじめや生徒事故・体罰等の服務事故ゼロ 3－1 災害時を想定した避難体制を踏まえた学校の施設・設備等の改善を図ります。 3－2 コンプライアンス厳守、確実な点検確認作業を心かけて実施し、事故の未然防止を図ります。 3－3 ミドルリーダー等による校内研修等、人材育成の充実化を図り、企画調整会議や教科主任会議を活性化させ、人づくりと組織づくりを深化させます。 主幹教諭が主任教諭を育成し、主任教諭が教諭へ指導・助言しながら支援をするような体制を深化させて、教育公務員としてのやりがいや成果が実感できて喜びが感じられる人材育成を図ります。 3－4 未来を支える生徒と教職員を育成するために ICT 機器等のデジタル技術を活用した校務（働き方改革、東京 DX 等）を推進します。 3－5 校内研修の充実化を図り、いじめ、体罰、ハラスメントの未然防止を推進します。	評価【C】 超勤時間月 80 時間以上 1 人、45 時間以上 5 人、生徒事故 5 件、いじめ・体罰等の事故ゼロ、服務事故 1 件 4－1 災害時の避難経路の確保に課題のある箇所を確認し、改善を図った。 4－2 時間講師が SNS を使用した生徒との私的なやり取りがあった。次年度は二度とないようにする。 4－3 主幹教諭を研修主任にあて、若手研修の校内研修会や昇任選考受験者向けの勉強会を実施した。主幹教諭が主任教諭を育成し、主任教諭が教諭を育成する体制は、次年度への課題が残る。 4－4 デジタルサポーターが年度内で 3 人交代する事態に見舞われたが、後半は、有効に活用し、教員のデジタル技術活用を推進した。 4－5 校内研修は動画に撮り、欠席者でも見返せるようにした。次年度は一層の充実を図る。